



1月17日には市職員を対象に「発散」「共有」「編集」のワークショップも実施

まちマジ 地域に真剣になる人を増やすしくみ



レポート「名張ゆめづくり協働塾」

「名張ゆめづくり協働塾」が12月21日に開催され、地域づくり組織の関係者など約60人が参加。講演「地域の魅力創出とその発信—シティプロモーションの視点から—」の要旨をご紹介します。



動画・ウェブサイト、印刷物、ブランドメッセージ
※河井教授の「地域魅力創出・革新スパイラル」をもとに図式化



今年「シティプロモーション」キックオフの年にしたい！
名張市長 北川裕之

名張のことを私たち自身がもっと深く知り、みんなでも共有し、自ら誇りを持って語れるようになる。また、市政やまちづくりの課題を「自分ごと」として共有し、課題解決や今後の方向性について語り合える。そんな「語れるまち名張」を築いていきたいと考えています。市を持続的に発展させていくためにも、名張に愛着を持ち、市政やまちづくりに主体的に関わる人を増やしていく「シティプロモーション」が欠かせません。この理念を市のすべての施策に、いかに浸透させていくことができるかが「鍵」となります。

令和6年3月に市制施行70周年を迎えます。これを目標に、みんなで共有できる名張の「ブランドメッセージ」を確立したり、シティプロモーションを戦略的に進めていくための仕組みやコンテンツを構築したりと、今年「シティプロモーション」キックオフの年にしたいと思います。さらに、令和7年開催の「大阪・関西万博」に向けて、名張市観光戦略などに基づき、観光や産業のプロモーションを積極的に進めていきます。

「発散」してみる。そうすれば、子どもたちがニコニコ歩いている風景もまちの魅力の一つだと気付くはず。毎日の暮らしの

名張は、どんな人が幸せになれるまちですか？
ここで重要になってくるのが、見出された魅力によって、ど

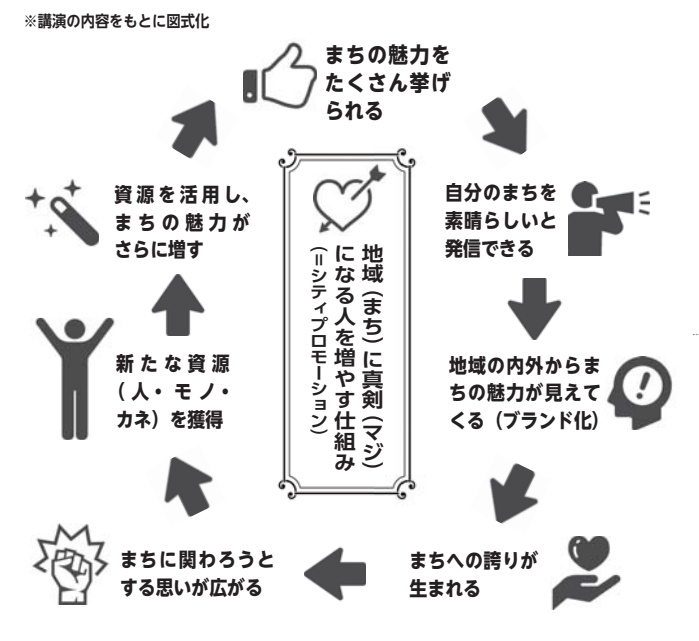
んな人が幸せになれるまちなのかを明らかにする「編集」という作業です。例えば、「大阪や名古屋へのアクセスが便利」という個別の魅力発信に終始するのでなく、都会の魅力に接することができ、自然にも親しめる名張では、どんな人にとって、どんな願いが叶うのか——をストーリー化する作業で、まちのブランド形成につながっていきます。もちろん、変わりゆくまちの魅力を絶えず「研鑽」していくことも求められます。

「移住すればいくら補助します」ではなく、「このまちでこんなことができます」という皆さんのメッセージに共感し、まちのために動き出す人が名張に増えていくと思いませんか。このためにも、まずは「名張がどういうまちなのか」を皆さん自身が語る事が大切なことです。

身の回りの魅力をたくさん見つけ出せば、まちの見え方が変わっていくんです

市民考案のブランドメッセージ事例

- 【あなたのみちを、あけるまち。八王子】 東京都 八王子市
都会の賑わいと自然のこころよさが、バランスよく調和したまちで、多様な生き方、働き方、学び方、遊び方をえらべる、なんでもそろう環境とやわらかな風土がある。
- 【余白あります。】 島根県 飯南町
まちの魅力がまだまだ進化していく可能性があることを「余白」という言葉に込めた。自由な発想でまちの魅力を生み出す町民でありたいというメッセージも発信している。



地域の担い手を増やすために何が求められるのか？
では、どうすれば地域の担い手が増えていくのか。「地域(まち)に真剣(マジ)になる力」を、名張の内外に広げていけばいいのです。

私の研究では、「まちの魅力をたくさん挙げられる人」が、「まちを良くするための活動」への参加意欲が高いという傾向がみられます。「名張には何も無い」と、名張を語る言葉を持たない人は、地域の担い手にな

地域の担い手とは？
人口減少によって、地域の担い手不足が生じているとも言えますが、そうした中であって、「まちをより良くしたい」「素敵なまちだと伝えたい」といった思いを増大させていくことがポイントとなります。大

ちへの「ありがとう」という感謝の気持ちが高まれば、まちは元気になっていくはず。その関わり方や頻度はさまざまなのです。

りにくいということ。す。だったら、「自分のまちを語れるようにしていこう」となりますよね。人口規模の大小、地名の認知度に関わらず、それぞれのまちには独自の強みや弱みがあります。まちの魅力ランキングのように誰かがつくった物差しではなく、自分にとって「どんなところが魅力的なのか」「住んでいて幸せを感じるのか」を見つめ直して、発信し、共有し、ブランド化していく。そんなサイクルがいろんなところで巻き起こっていくと、まちへの誇りが生まれ、まちに関わろう、より良くしようとする思いも広がっていきます。そして、これらによって、人・モノ・カネといった地域に必要な資源を獲得し、名張で活用していくことができれば、まちの魅力がさらに増していくこととなります。

まちを語れる人が増えれば、まちをより良くしようという思いも増えていきます



講師 東海大学 文化社会学部 教授 河井 孝仁 さん

地域の持続的発展に向けたシティプロモーション推進を図る「シティプロモーションアワード」を創設するなど、全国的なシティプロモーション研究の第一人者として活躍。国や地方自治体などの行政やNPOなどを中心に、多様な広報施策・プロモーション企画についての支援を行っている。12月の「名張ゆめづくり協働塾」に続き、1月17日には市職員向けの研修を実施